

- 病院長のご挨拶
- 呼吸器内科のご紹介
- 検査部・輸血部が「ISO15189」を取得
- 神経内科は診療科名を「脳神経内科」へ変更しました
- 第12回「まごころ職員大賞」が決定
- 文書同意窓口が設置されました

地域に支えられ患者さんと共に歩む病院として、質の高い医療を提供します

病院長 松末 吉隆



当院では、病院長選考の透明性をより明確にするため新たな選考方法を策定。選考の結果、平成30年4月1日付けで松末病院長が再任されました。

当院は、開院40年目を迎える地域医療を担う中核病院で、かつ高度・先進医療を推進する**特定機能病院**でもあります。

当院は地域医療への貢献として、特に「がん医療」「新生児・産科医療」「高度医療」「救急・災害医療」の充実に取り組んでいます。

がん医療

「がん医療」では滋賀県がん診療高度中核拠点病院の指定を受けており、ロボット支援手術、高精度放射線治療、オーダーメイド医療、ゲノム医療等先進的がん治療、小児がんや妊孕性温存への取り組みを推進しています。

新生児・産科医療

「新生児・産科医療」では、総合周産期母子医療センターを有し、新生児集中治療室（NICU・12床）や新生児治療回復室（GCU・12床）および母体胎児集中治療室（MFICU・6床）で、重症・困難症例に対応しています。

高度医療

「高度医療」では、患者さんの身体への負担が少ない治療（内視鏡外科、脳血管内治療）や難易度の高い医療（心臓血管外科手術、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、重症不整脈治療、重症眼科疾患等）を行っています。

救急・災害医療

「救急・災害医療」では、集中治療室（ICU・12床）、ヘリポート等を活用し、広域から搬送される極めて緊急を要する重症患者さんの治療に当たっています。

また、医療の質向上のため臨床指標（QI）の定期的な見直しと公表、栄養サポートチームや褥瘡対策チームなどの「チーム医療」、患者支援センターやICT（びわ湖あさがおネット）等を通じた地域の医療機関との連携強化など様々な取組みを進めています。

当院の理念・基本方針の下に、「患者さんにやさしく、信頼と満足を与えられる医療」を目指し邁進します。

さらに、教育病院として優れた医療人を育成し地域に貢献する義務もあります。

このような大学附属病院の重要な役割を推進すべく努力する所存ですので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

コラム

特定機能病院とは？

特定機能病院は、医療施設機能の体系化の一環として、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び実践を行うにふさわしい人的資源、構造・設備を備えた病院に対して厚生労働大臣が認可するもので、本院は平成7年2月に承認されました。

呼吸器内科のご紹介

呼吸器内科

これまで一体運営を行ってきた「循環器内科」と「呼吸器内科」は、診療体制のさらなる充実に向け、別々の組織に再編成され、平成30年6月1日付けで呼吸器内科に新たに教授が就任しました。

といっても、当院に通院されている患者さんにとっては、大きな変化はありません。これまでも、入院・外来とも、呼吸器内科と循環器内科は別々の診療科として機能してきました。今後も、これまでと変わらない体制で診療に当たらせていただきます。また、いろいろな病気がある呼吸器内科では、特に患者さんの多い疾患に対する疾患別外来を開設しています。慢性閉塞性肺疾患（COPD）外来、喘息外来などの専門外来（完全予約制）も、今後ますます充実させていきたいと考えています。

呼吸器の病気にかかる人が増えてきています。肺炎などの感染症、ぜんそく・COPD・間質性肺炎など慢性の肺疾患、そして肺がんなどの患者さんも増えています。

したがって、呼吸器の病気にかからないようにする努力はもちろんのこと、早期発見、早期治療が大切です。

タバコが体に良いことはひとつもありません。禁煙が大切です。当院では禁煙外来も開設していますので、なかなか禁煙できない方は、ぜひ、主治医とご相談下さい。また、肺炎の予防も大切です。65歳以上の方に対しては、肺炎球菌ワクチンが平成26年から国の定期接種になっています。まだ接種されていない方は、主治医と相談の上、是非ワクチンの接種をして下さい。さらには、定期的な

検診が重要なことは、いうまでもありません。最低1年に1回は胸部レントゲン写真をとって、肺の状態をチェックしましょう。また、呼吸機能検査（肺活量などを測る検査）も是非受けて下さい。思わぬ病気の発見につながる可能性があります。

滋賀県においては、まだまだ呼吸器内科を専門とする医師が少ないのが現状です。当院の呼吸器内科には専門家が揃っています。困ったことがあれば、是非ご相談下さい。



検査部・輸血部が「ISO15189」を取得

検査部

検査部・輸血部は、2018年3月に臨床検査室の国際規格である**ISO15189**の認定を取得しました。

当院の診療の基本方針は、「信頼と満足を追求する全人的医療の実践」であり、検査部・輸血部・病理部は、迅速で精密かつ正確な検査結果の提供により診療支援に努めてきました。臨床検査をより良いものとするためには、自らを効率的に向上させる仕組みを導入・構築し第三者機関による客観的な評価を得ることが重要と考え、2016年11月より**ISO15189**の認定取得に取り組んできました。**ISO15189**認定取得

はゴールではなく、継続的な改善の仕組みをスタートしたにすぎません。今後、病理部門の認定取得も目指していきます。検査部・輸血部・病理部の臨床検査に関わるすべてのスタッフは、**ISO15189**の品質マネジメントシステムを活かし、更なる診療支援および患者サービスの向上に努めていきます。



コラム ISO15189とは

ISO15189は、国際標準化機構（International Organization for Standardization, ISO）によって作成された、臨床検査室に特化した国際規格です。

この規格は、臨床検査室における品質マネジメントシステムと技術能力の両方を評価し“認定”する仕組みになっています。臨床検査室の技術能力も評価するところが、品質のマネジメントシステムのみを評価し“認証”される**ISO9001**とは大きく異なるところです。



神経内科は診療科名を「脳神経内科」へ変更しました

脳神経内科

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を診る内科で、脳神経外科とほぼ同じ病気が対象です。ところが精神科との違いが患者さんにとってわかりにくく、しびれや頭痛、筋力低下といった脳神経系の症状が出た際に、神経内科の受診が遅れるという状況がありました。そこで当院では、患者さんにとって診療内容がより伝わるよう診療科名を「脳神経内科」に変更いたしました。皆さん新しい「脳神経内科（略称脳内科）」を宜しくお願いします。



第12回「まごころ職員大賞」が決定

医療サービス課



「まごころ職員大賞」とは…

職員の患者サービス・接遇意識の向上を啓発することを目的に、患者さんやご家族の方々から「対応が良かった」等とご推薦をいただいた職員を表彰する制度です。



患者サービス向上委員会において、投票数522票の中から2名の職員にまごころ職員大賞が決定し、また、2名に次ぐ得票率を得た看護師8名が在籍する4D病棟にも、病棟の取り組みに対し、特別賞が決定しました。平成30年3月22日(木)に授賞式が行われ、松末病院長から表彰状と記念品の贈呈があり、ねぎらいの言葉がかけられました。



これからも、心あたまる医療の提供を目指し、接遇向上に向けた取り組みを実施してまいります。



リハビリテーション部

理学療法士

宮原 知聡さん

4D病棟看護師

辰巳 舞さん

病棟の取組として

看護部4D病棟

文書同意窓口が設置されました

医療サービス課

診療参加型臨床実習は、医学生がスチューデントドクターとして、指導医の教育・指導のもとに診療チームの一員として診療に参加し、医療の実際を学んでいくものです。医学生はこの実習を通して、医師としての態度、技能を学んでいきます。またこの実習で得られたことが、国家試験後の医師臨床研修へと受け継がれ、質の高い医療が提供されることに繋がります。以上のことから、診療参加型臨床実習は、よき臨床医を養成するために必要不可欠となっています。

一方、国からは、医学生が診療に参加するにあたっては、患者の皆様の手書き署名による同意を得ることが推奨されていることから、本院においても、皆様に文書での同意をお願いすべく窓口を設置しています。

今後とも同意書の取得にあたり署名をお願いしますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する『全人的医療』」

滋賀医大病院ニュース第55号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

TEL：077(548)2012(企画・IR担当)課

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。



●理念を実現するための 基本方針

- 患者さんと共に歩む医療を実践します
- 信頼・安心・満足を提供する病院を目指します
- あたたかい心で質の高い医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 先進的で高度な医療を推進します
- グローバルな視点を持ち、人間性豊かで優れた医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します